

## 流域イベントを活かしたまちづくりについて\*

野尻 奈央子<sup>\*1</sup> 木川 剛志<sup>\*2</sup> 西尾 浩一<sup>\*2</sup> 竹田 周平<sup>\*3</sup>

### A Study on Community Development Utilizing the Watershed Area

Naoko NOJIRI<sup>\*1</sup> Tsuyoshi KIGAWA<sup>\*2</sup> Koichi NISHIO<sup>\*2</sup> Shuhei TAKEDA<sup>\*3</sup>

<sup>\*1</sup> Department of Industrial Business and Engineering

We researched cases for community development utilizing the watershed area nationwide. We conducted a questionnaire survey on "Let's go to the river!" and "Stylish re・Bar" which was held in Hino River. Fukui Prefecture intended to effectively utilize the community developments. It is highly expected as a place to contribute to the community development, such as the initiatives in the "Arakawa" and the "City of Hiroshima water" and the watershed residents are hoping to about what are ways to utilize from Hino River.

**Key Words** : Community Planning, Event Management, Watershed Area

### 1. 緒 言

近年の日本では、人口の減少、少子高齢化、財政緊縮といった社会的背景に加えて、2011年3月11日の悲劇、東日本大震災も一つの契機となり、現在の日本において持続的な地域の構築が国策として、重要な課題となっている。持続可能な社会のために、国は「地域の集約化」を重点目標と位置づけている<sup>(1)</sup>。本研究では、全国の「かわまちづくり」の取り組みについて事例を研究した。また福井県日野川で開催された「そうだ！川へ行こう」および「おしゃれなり・Bar」に関するアンケート調査を実施し、福井県内をはじめとしたかわまちづくりに有効に活用できる指針を明らかにすることを目的としている。

国土交通省河川局<sup>(2)</sup>は「河川空間のオープン化」(地域活性化のための河川敷地の占用に関する規制緩和)として、特例措置の内容を全国で実施可能にし、広場、イベント施設等(これらと一体をなす飲食店、オープンカフェ、広告板、広告柱、証明・音響施設、バーベキュー場等)、日よけ、船上食事施設、突出看板であり、占用主体は、公的主体、協議会等において適切と認められた民間事業者、民間事業者である。地域活性化等の観点からイベント施設やオープンカフェの設置等水辺空間を活かした賑わいの創出や魅力あるまちづくりに寄与し、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とした。2004年より民間事業者による河川敷地での営利活動を可能にする規制緩和を社会実験(特例措置)として実施。現行では道頓堀川を例とした8区域で実施している。持続可能な社会づくりとしての社会実験 また2011年より、社会実験としての区域指定を行わず、全国で実施が可能となることを受けて、全国では様々な取り組みがされている。

かわまちづくり支援制度<sup>(3)</sup>として、観光などの活性化に繋がる景観・歴史・文化等の河川が有する地域の魅力という「資源」や地域の創意としての「知恵」を活かし、地方公共団体や地元住民との連携の下で立案された。また、実現性の高い河川や水辺の整備・利活用計画による、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図ることを目的としている。ソフト面では、民間事業者による河川敷のイベント広場やオープンカフェ等への利用 制限(河川敷地占用許可準則の特例措置)等を拡充、河川管理者として「地域づくりのためのフォローアップ」

\* 原稿受付 2014年2月28日

<sup>\*1</sup> 産業ビジネス学科

<sup>\*2</sup> デザイン学科

<sup>\*3</sup> 建築生活環境工学科

E-mail: n-nojiri@fukui-ut.ac.jp

を積極的に支援することであり、ハード面においては、まちづくりと一体となった水辺整備を積極的に支援することである。

## 2. 事例研究

### 2.1 広島「水の都ひろしま」

広島市の貴重な地域資源である水辺の魅力をより一層引き出すため、1990年3月、国、県、市が連携して「水の都整備構想」を策定し、緑豊かな海岸緑地や親水性の高い護岸など、水の都の根幹となる基盤づくりに取り組んだ。「水の都ひろしま」の実現のための様々なアイデアを盛り込み、構想を策定した。その構想の目的は①水辺等における新たな都市の楽しみ方の創出、②都市観光の主要な舞台づくり、③水の都にふさわしい個性と魅力ある風景づくりである。また、その実現に向け、①水辺の利用に関する様々な「社会実験によって先導する」、②市民・企業・行政が「協働で取り組むこと」を基本として、モデル地区を設定し、重点的に取り組むこととしている<sup>(4)</sup>。

水の都ひろしま推進協議会<sup>(4)</sup>では、「水辺のコンサート」と題して毎年、春と秋の日曜日を中心に原爆ドーム対岸親水テラスなどでミュージシャンやパフォーマーによる日常的なコンサートを開催しており市民の芸術文化活動による水辺の新たな風物詩づくりに取り組んでいる。また、容易に水面に近づくことができ、安心して泳げ、安全に楽しく遊べるような水辺づくりを目指している。また、市民活動団体が中心となって、カヌー体験、環境学習、川ざらえなどが行われ、川で遊ぶ楽しさや川の自然環境等への市民の関心を高めている。

### 2.2 荒川「LOOK ARAKAWA」

荒川下流部は、首都圏を流れる貴重なオープンスペースとして、水辺の賑わいの創出や、魅力あるまちづくりへ寄与する活動の場として大いに期待されている。これまで、河川敷地占用における占用主体は、公共性、公益性の観点から地方公共団体等に限定されていたが、国土交通省が成長戦略に掲げる行政財産の商業利用の促進の観点から、2011年3月に「河川敷地占用許可準則」が一部改正され、地域の協議会等による合意形成のもと、民間事業者等による地域の再生等に資する河川敷地の利用が可能となった。『LOOK ARAKAWA』は岩淵地区をモデルとして、民間活力を導入した地域活性化の具体化方策の検証を行うとともに、河川等の効率的な維持管理や運営の枠組み、利用サービス向上の方策等について検証されている<sup>(5)</sup>。

### 2.3 日野川「そうだ！川へ行こう」「おしゃれなり・Bar」

2008年度より越前市日野川にて川への関心をたかめる目的でスタートした流域住民イベント「そうだ！川へ行こう」はさまざまな角度から川への関心を高めるための思考を凝らした企画を展開したことで、多様な十種・団体・自治体との連携へと発展し、来場者も4,000名を超えるほどの注目度が高いイベントに発展した。2011年度よりオープンした音楽とお酒で演出する「おしゃれなり・BAR」は、地元飲食業やプロミュージシャンとの新たな連携で「本物」のおもてなしが提供できたことで、これまで川にくることが少なかった若い世代(20~30代前半)の来場者数を増やすことに成功した。また、上品で癒しのある新たな日野川の景観を創出できることができ、新しい流域でのビジネスへの可能性が期待されることとなった。



Fig.1 そうだ川へ行こうの様子



Fig.2 おしゃれなり・Barの様子

### 3. 方 法

#### 3. 1 アンケートの実施

イベントは2013年8月4日に行われ、多くの親子連れを含めて約4000人の参加があった。アンケートの調査方法はこれらイベント参加者を対象とし、現地のアンケート調査およびインタビュー形式で行った。

#### 3. 2 アンケート項目

アンケートはまず回答者の属性とイベントを知るきっかけおよび回答者の満足度を5段階に分けてマーク方式で評価した。

#### 3. 3 河川環境保全する参加者の意識調査およびイベント施設利用の満足度に関する意識調査

以下に、河川環境保全に関する設問およびイベント施設、利用の満足度に関する質問について列挙する。

①アユなど魚類の豊かな川づくりに関する取り組みについて、②川遊びなどの環境教育の推進について、③子供たちが川体験をすることについて、④飲食店の利用環境、サービスについて、⑤催し物の利用環境、サービスについて、⑥駐車場の利用環境、サービスについて、⑦トイレの利用環境、サービスについて、⑧熱中症対策や安全策について、またイベントの中で楽しむことができた催し物はどれか。また、その理由について

### 4. 結 果

成人男女110名から回答アンケートを得た。Table 1には、河川環境保全に関する設問の平均値を、Table 2には、イベント施設利用の満足度に関する設問の平均値の結果を示している。Table 1では男女の比較、Table 2では、20歳代～50歳以上の世代に分けて表示した。

Table 1 河川環境保全・環境教育に関する設問の平均値

イベント環境項目	女性	男性
アユなど魚類の豊かな川づくりに関する取り組みについて	4.40	4.56
川遊びなどの環境教育の推進について	4.48	4.54
子供たちが川体験をすることについて	4.69	4.68

Table 2 イベント施設利用の満足度に関する設問の平均値

イベント環境項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上
飲食店の利用環境、サービスに満足しているか	3.58	3.63	3.65	3.78
催し物の利用環境、サービスに満足しているか	3.82	3.80	3.78	4.00
駐車場の利用環境、サービスに満足しているか	3.33	3.16	3.11	3.71
トイレの利用環境、サービスに満足しているか	3.58	3.08	2.97	3.22
熱中症対策や安全対策に満足しているか	3.40	3.35	3.36	3.53

下図に示す通り、イベントの中で楽しむことのできた催し物の割合として、手づかみ漁体験69.8%、アユの塩焼き体験38.8%、川に学ぶ体験活動22.5%、幼児プール体験23.3%、おしゃれなり・Bar6.2%、ストーンイベント8.5%、魚道模型3.1%、日野川水族館11.6%、生き物調査5.4%、アカタン砂防1.6%、その他0.8%となった。

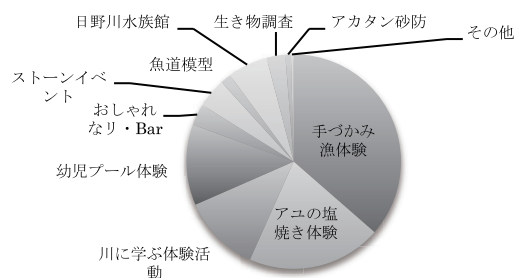


Fig.3 イベントの中で楽しむことのできた催し物の割合

## 5. 考察および結語

本研究では、事例研究として川のまちづくりにおける調査および日野川における流域イベントにおける流域住民の意識調査を実施した。ここまで述べた事例研究では、川を舞台とした流域イベントにより水辺の魅力づくりや水辺の賑わいの創出などを工夫しながらまちづくりが成されている。またその魅力あるまちづくりを実現するためには今後も継続的なイベント開催および流域住民の意識調査を実施していかなければならないと考えられる。まちづくりはいずれも「地域の魅力づくり」「人材の養成・活用」などを通じた活性化とした共通した目標であり、活動である<sup>(6)</sup>。強いては「持続可能な川のある社会づくり」を推進するための人材を育成するための拠点を創出してくことで、次世代の若者が住みやすい流域環境づくりができるものと考えられる。

日野川における流域イベントではイベントの施設利用に関する満足度は全体的に満足度が高い結果であったが、さらに満足度を高めるためには、次年度のイベントにおいて改善すべき点を明確にすること、イベント参加者に喜ばれるイベントづくりにどう心がけをすることが重要であろう。また環境保全に関するアンケート調査では、川での子どもの教育や環境教育について高い評価が得られていることから、関心は高いことがわかる。今後、このようなイベントが各地で開催されると共に流域住民の川への意識改革が行われることを大いに期待する。

## 謝 辞

本研究は福井工業大学特別研究費クラスタ研究E「持続可能で活力ある地域づくりプロジェクト～水郷の研究と福井市周辺地区への応用～」の補助によって得られたものである。ここに記して感謝したい。また本研究を遂行するにあたり日野川流域交流会はじめ、リバビズ大学の奥村充司先生、田中謙次さんには多大なご協力をしていただき、深く感謝しております。感謝の意を表して謝辞と致します。

## 文 献

- (1) 国土交通省, “まち・住まい・交通・創蓄省エネルギー化の総合的な支援について”, <http://www.Mlit.go.jp/common/000184785.pdf> (参照日2014年2月10日).
- (2) 国土交通省河川交通課“河川空間のオープン化”, [https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet\\_jirei/kouhou/kasen/pdf/kasenkuukan.pdf](https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kouhou/kasen/pdf/kasenkuukan.pdf) (参照日2014年2月10日).
- (3) 国土交通省“かわまちづくり支援制度の概要”, <http://www.Mlit.go.jp/common/000047008.pdf> (参照日2014年2月14日).

流域イベントを活かしたまちづくりについて

- (4) 水の都ひろしま推進協議会”河川空間利活用のリーディングプロジェクト 水辺のオープンカフェ “,  
<http://www.City.hiroshima.lg.jp/www/contents/0000000000000/1111583774214/files/opunkafepanhureto.pdf>  
(参照日2014年2月14日).
- (5) 河川空間のオープン化について,  
[http://www.Ktr.mlit.go.jp/arage/attachment/associated/associated02/f\\_1363597328\\_3.pdf](http://www.Ktr.mlit.go.jp/arage/attachment/associated/associated02/f_1363597328_3.pdf)  
(参照日2014年2月14日).
- (6) 福留強, ”観光まちづくりの手法と地域活性化への効果-生涯学習の視点から「観光まちづくり」を考える-“, “聖徳大学生涯学習研究紀要, 第9号(2011), pp. 19-28.

(平成 26 年 3 月 31 日受理)